

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	小林裕子
2. 審査委員	主 査：（兵庫教育大学教授）永田智子 副主査：（鳴門教育大学教授）前田洋一 委 員：（岡山大学教授）佐藤 園 委 員：（兵庫教育大学教授）溝邊和成 委 員：（兵庫教育大学教授）森山 潤
3. 論文題目	中学校家庭科「災害時の食」教育の授業に関する開発研究
4. 審査結果の要旨	先端課題実践開発専攻 先端課題実践開発連合講座 小林裕子から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和3年2月22日（月） 9時30分～10時40分 場 所：兵庫教育大学神戸HLC講義室3およびオンラインのハイブリッドで実施 1. 学位論文の構成と概要 本研究の目的は、中学校家庭科「災害時の食」教育の授業を開発し、その有効性を明らかにするとともに、課題解決や改良を重ね、今後の家庭科における「災害時の食」教育を推進するための授業方法を提案することである。本論文は、第1章（序章）、第8章（終章）を含め全8章からなる。また第2章から第4章が第Ⅰ部、第5章から第7章が第Ⅱ部、の2部構成となっている。 序章では、「災害時の食」教育の必要性和学校教育上の課題を検討し、本研究の目的、アプローチを整理した。第Ⅰ部（第2章から第4章）では、中学生及びその家庭の実態を踏まえた「災害時の食」教育の授業開発について扱った。第2章では授業開発の前段階として、中学生とその保護者を対象に「災害時の食」に関する質問紙調査を実施し、4点の課題を明らかにした。第3章では、中学生及びその家庭の4点の課題の解決を目指して、中学校家庭科における「災害時の食」教育の授業を開発した。開発した授業を実践し、授業前後にアンケート調査を実施した。分析の結果、開発した授業の有効性が示唆されたが、献立作成が課題となった。第4章では、中学生の献立作成を支援する方策として、料理レシピサイトの活用を試みた。授業実践と授業評価から、料理レシピサイトを活用した授業の有効性が示された。第Ⅱ部（第5章から第7章）では、家庭科教科書の記述内容および家庭科教員の現状や意識を踏まえた授業の改良について扱った。第5章では、家庭科教科書における「災害時の食」教育に関する

記述分析を行い、20項目の「学習内容」と16項目の「学習活動」、合計36の学習項目に分類した。第6章では、家庭科教科書から分類した「災害時の食」教育の36の学習項目を使用し、全国の中学校家庭科教員対象に質問紙調査を実施した。第7章では、全国の中学校家庭科教員対象の質問紙調査結果を踏まえて、第3章で開発した「災害時の食」教育の授業を改良した。また、教員の実践上の課題である「指導するための授業時間不足」、「カリキュラム・年間計画にない」「指導に適切な教材・教具の不足」の解決策として、授業のモジュール学習化、年間カリキュラムへの配置、各モジュール学習の授業実践のモデルとなる学習指導案を作成するとともに、ワークシート、プレゼンテーション教材及び動画教材を作成し、パッケージで提案できるようにした。第8章（終章）では、本研究で得られた知見を整理し、本研究の結論とした。

2. 審査経過

本研究の目的は、中学校家庭科「災害時の食」教育の授業を開発し、その有効性を明らかにするとともに、課題解決や改良を重ね、今後の家庭科における「災害時の食」教育を推進するための授業方法を提案することである。序章では、「災害時の食」教育の必要性和学校教育上の課題を検討し、本研究の目的、アプローチを整理した。第2章では中学生、保護者対象の「災害時の食」教育の事前調査を実施し、中学生及びその家庭の課題を明らかにした。第3章では、中学校家庭科「災害時の食」教育の授業開発・実践・評価を、4章では、3章で開発した授業の課題解決と評価を行った。第5章では、家庭科教科書における「災害時の食」教育に関する記述分析を、第6章では中学校家庭科教員対象の「災害時の食」教育に関する全国調査を実施し、授業改良のための知見を得た。7章では5章、6章の調査で得られた知見を基に、「災害時の食」教育の授業改良とモジュール学習化を行った。

本研究では、これまでに中学校家庭科で開発されていない「災害時の食」教育の授業を、実践と評価を通して有効性を確認した上で提案している。また、授業実践で明らかとなった中学生の献立作成上の課題は、料理レシピサイトを活用することにより解決した。さらに全国調査で教員が必要と考えた学習項目を踏まえて授業を改良し、さらにモジュール学習化することで、教員の「災害時の食」教育の実践上の課題の解決を図った。授業をモジュール学習化し年間カリキュラムに位置付けたことにより、既存の食生活領域の学習と組み合わせ短時間での指導が可能となった。また学習指導案および授業に活用できる教材をパッケージ化したことにより、教員の授業準備の負担軽減を図るとともに、授業実践に必要な情報を提供することが可能となった。以上より、本論文は、独創性と有用性、発展性が認められ、今後の教育実践の展開に大きく貢献する研究といえる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は小林裕子の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。